

2024 年度

オレンジリボン支援団体活動報告書

NPO 法人新座子育てネットワーク



管理番号

1337

2024 年度のオレンジリボン運動活動報告

◆新座市児童センター

利用者を対象に館内での啓発ポスターの掲示やチラシの配架、受付カウンターでのマスクとオレンジリボンの配布を行いました。期間中は職員の名札にもオレンジリボンを貼り、また子ども達が普段おもちゃの貸し出しに訪れるカウンターに置いてあるオレンジのリボンをみて子ども達が職員にこれは何？と問いかけることが多く、オレンジリボンの活動について職員がおしえる光景がありました。受け取った子どもたちは自分のメンバーカードに貼ったり自分の洋服の胸元にかざったりと活動への賛同の意を表現していました。

◆福祉の里児童センター

- 受付に設置したオレンジリボンについて質問してくる小学生が多く、児童虐待防止推進月間のことを伝えると、リボンを手に取り、胸やバックにつけてくれました。
- 保護者同士、日頃の子育てについて話し合い、離乳食を食べない時、なかなか寝ない時、イヤイヤ期で大変な時など、イライラしてしまう気持ちを共有していました。苦しくなった時は子どもを夫にみてもらうという声がありました。また父親の参加もあり、休日は自分が子どもをみて奥さんに自由な時間を過ごしてもらうようにしているとの話もありました。こっそり美味しいおやつを食べたり、親子くらすのように、話せる場があるとストレス発散になるとの話しあいもでき、子育てについて色々な視点から考えることができました。

◆地域子育て支援センターるーえん

11 月児童虐待防止月間に、利用者を対象に虐待防止に関する下記の活動を行いました。

- 児童虐待に関する情報の館内掲示
- 予防型プログラム「子育て中のストレス解消法」を実施し、4組の親子が参加。
 - 育児の悩みやストレスポイントをみんなで分かち合い、ストレス解消のヒントを見つけるきっかけになった。
 - 後日「プログラムに参加したことで、つらいのは自分だけじゃないんだと思えるようになった」と、気持ちの変化を話してくれた参加者がいました。

◆大泉子育てのひろばわとと

11 月児童虐待防止月間に、下記の活動を行いました。

- 児童虐待に関する情報について室内掲示。
- オレンジリボンとオレンジリボン運動のマスクを配布。
- どんな時にイライラするか・ストレス解消法を無記名で記入してもらい室内のオレンジリボンツリーに掲示。
- 予防型プログラム「テーマトーク～子どものほめかた・しかり方」を実施。
 - 参加者から「自分はほめることもあまり出来ず、しかり方も良くないのではと今まで思い悩むことが多かった。自分の出来ていたほめ方・しかり方を認めてくれた事や、心の中のモヤモヤを吐き出せたことで気持ちがとても楽になった」との感想がありました。
 - 厚生労働省「体罰等によらない子育てを広げよう」を参考資料とし、子どものほめ方・しかり方についての基本や、体罰や児童虐待についての正しい知識を得られるようにしました。

◆地域子育て支援センターセサミ

11月児童虐待防止月間に、下記の活動を行いました。

- 児童虐待防止に関する情報の掲示
- オレンジリボン・啓発用マスクの配布
 - 啓発活動の一環としてオレンジリボンとマスクを配布。職員がオレンジリボンをつけて、虐待防止についての意識を高めることを目指した。また、セサミを利用する親やプログラムに参加した方にもオレンジリボンを配布。この取り組みを通じて、子育て中の方に児童虐待防止に関するメッセージを広めることができました。
- 予防型プログラム「子育てゆったりトーク」の実施 参加4組（大人3・子ども3）
 - セサミを利用する乳幼児親子を対象に、子育て中の困難や悩みを共有することを目的として「子育てゆったりトーク」を実施。
 - 参加者は4組の母親とその子どもで、子育てにおける大変さや気になる点を付箋に書き出し、皆で意見を交換しました。参加者の中には、自身がどのような状況でイライラしてしまうのかを言葉にすることで、感情の整理ができたと話す母親もいた。このような対話を通じて、他の親たちも同じような困難を抱えていることに気づき、孤独感が和らいだとの声が寄せられました。子育ては一人で抱え込まず、支え合うことが重要だというメッセージを伝えることができました。
- 児童虐待防止月間の周知と取り組みをSNSで情報提供

